

どのような症状がみられますか？



と



以下の症状は特徴的なものです。このことだけでは判断できませんので、心配な場合は14ページ以降のさいたま市の相談窓口にご相談ください。

課題

乳児期

夜泣きが激しい、よく泣く、かんしゃくが強い、抱きにくいなどの育てにくさ。反対に、よく眠りおとなしい、手がかからないなど。

幼児期

よく動き回り目が離せない、言葉の遅れ、コミュニケーションのための言葉が少ない、マイペースな行動が多く指示に従えない、他の子どもにも興味がなく子ども同士で遊べない、落ち着きがなく集団行動がとれないなど。

学齢期

読み書きが苦手、落ち着きがなく注意力が散漫、周囲の状況が理解できず不適切な行動や発言が多い、友達とのトラブルが多い、片付けや整理が苦手、忘れ物が多い、家庭内でのしつけにくさが見られるなど。

思春期

同級生と先輩後輩の付き合い方の違いに混乱する、異性の友人への気遣いが薄い、基礎的な学習能力にアンバランスがある、課題や活動を順序立てて行うことが難しいなど。

成人期

対人関係や集団生活でのトラブルが多い、仕事が長く続かないなど。

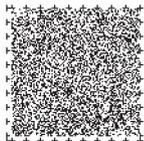
対応

これらは発達障害の特徴として多く見られるものです。これらの特性以外に、適切な対応を受けられなかったことが原因による二次的な症状（自信喪失や不信感、うつなど）が引き起こされている場合もあります。

年齢に応じた発達や言動を求めると、本人に合った方法やペースを尊重し、周囲が支えていくことが大切です。相談機関に連絡して、適切な支援が受けられるよう相談してみましょう。

※このような特徴があるからといって、必ずしも発達障害であるとは限りません。

診断については小児神経科医・精神科医等の医師にご相談ください。



こんなときはどうすればいいの？

乳幼児期



生後4か月になります。上の子どもと違い、よく泣き、いつも機嫌が悪く、強く反り返り抱きにくいなど、育てにくさを心配しています。



もうすぐ2歳になります。よく動き回り、目が離せません。他の子どもやおもちゃにもあまり興味がなく、公園に行っても走り回っていることが多いので心配です。



かかりつけ医がいる場合にはかかりつけの医療機関で相談をしてみましょう。さいたま市では4か月児、10か月児、1歳6か月児、3歳児の乳幼児健康診査を行っています。その時に相談することもできます。またはお住まいの区の保健センターにご相談ください。保健師がお話を伺い、必要なアドバイスを行います。ご希望によっては専門機関を紹介することもできます。また、総合療育センターひまわり学園か療育センターさくら草、療育センターひなぎくにご相談ください。乳幼児健康診査の実施機関としての役割もあり、専門の小児科医が診察を行い相談に応じます。

